



古生代			中生代				新生代						
デボン紀	石炭紀	ペルム紀	トリアス紀	ジュラ紀	白亜紀		古第三紀		新第三紀		第四期		
3.59億	2.99億	2.51億	2.00億	1.46億	9960万	6600万	5600万	3400万	2300万	530万	260万	1万	
				前期	後期		暁新世	始新世	漸新世	中新世	鮮新世	更新世	完新世

＜写真撮影地は、右地質図の 1、ポートタワー入口の海側＞

▼ 新生代・新第三紀・中新世には、日本海が開くことによって、アジア大陸の東縁にあった地域が分離されて、日本列島を形成した。

▼ 中新世前期の約2,100万～2,000万年前、現在の銚子半島・東海岸のやや外側を囲むように、火山フロントがあった。

夫婦ヶ鼻地域の浅い海にも、海底からマグマが噴出し、古銅輝石を含む安山岩質の熔岩を噴出した。この地域の、凝灰質砂岩の中に安山岩を含む地層を「千人塚層」と呼ぶ。

▼ 中新世中期の約1,650万年前、銚子は、やや深い海中にあった。

この時代、銚子の東海岸北部では、海成シルト岩が、千人塚層の上に不整合に堆積した。この海成の堆積層を、地域名に因んで、「夫婦ヶ鼻(メドガハナ)層」と呼び、地質年代は、層中の珪藻化石の年代により確定された。

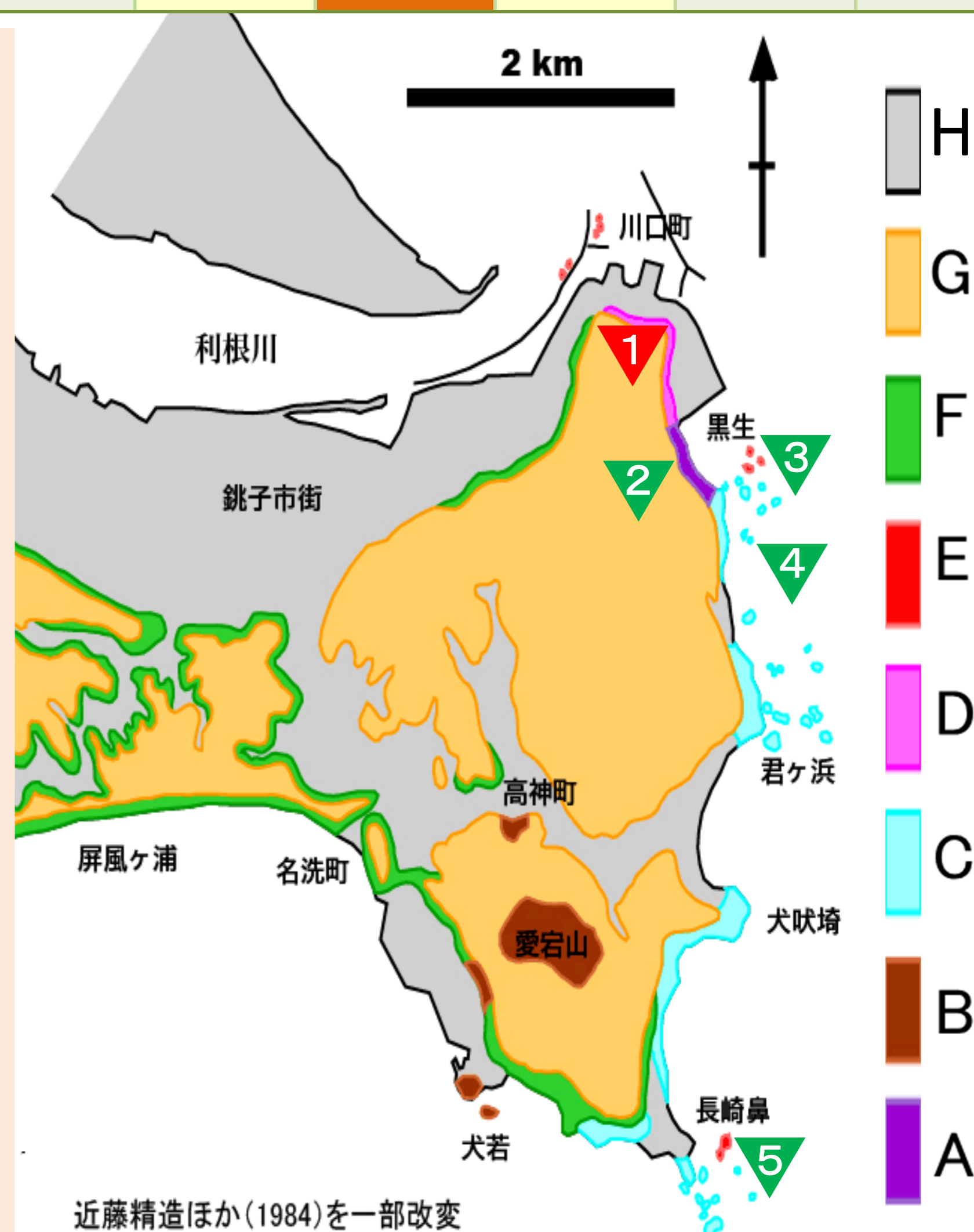
▼ 夫婦ヶ鼻層の下部は、薄い凝灰質シルト岩の中に細粒の砂岩層を薄く含む。

上部は、分厚い珪藻土質の暗灰色シルト岩より成る。夫婦ヶ鼻層の層厚は約20m。

模式地はポートタワー下にあるが、かつて、この崖は南側に約1.5kmに亘って続いており、約50ヶ所の断層が見られたという。

▼ 海上に出ていた堆積岩の岩礁の先端部(ハナ)に、遠くからも目立つ海食洞があり、この洞をメド(目処)と呼んだことから、メドのあるハナ(鼻)⇒メドガハナが地域名の由来とされる。この海食洞は数十年前に自然崩壊した。堆積岩の岩礁自体も、川口漁港の堤防工事で、一部を残して撤去された。

また、近辺の熔岩の岩礁も、この工事で撤去され、一部が、川口の『古銅輝石安山岩公園』に移して、展示されている。



近藤精造ほか(1984)を一部改変

千葉県立中央博物館提供 <地質図の地質色分けの凡例>

- A. 愛宕山層群(チャー)ト、B. 愛宕山層群(砂岩・泥岩)、
- C. 銚子層群、D. 夫婦ヶ鼻層、E. 古銅輝石安山岩、
- F. 犬吠層群、G. 香取層&関東ローム層、H. 沖積層